

# 電気炉 半導体向け提案

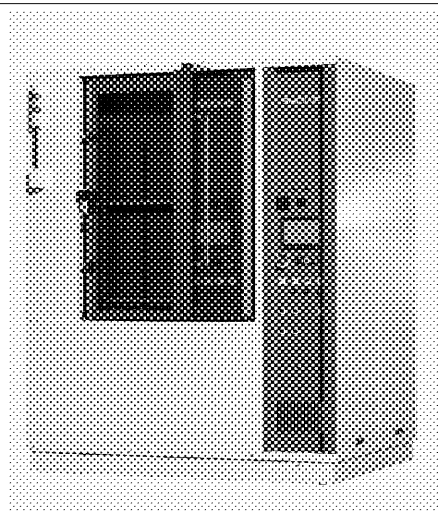
## 昭和鉄工、熱利用製品を拡販

【福岡】昭和鉄工は電気炉など熱利用製品の半導体製造分野向け提案を強化する。現在開発中の「熱風循環式電気炉」について、このほど台湾の後工程メーカーに提案を始めた。またヒーター内蔵パイプに関しても、排ガスに含まれる成分の内部付着を防ぐ製品として国内外メーカーの熱処理炉などへの採用を目指す。そのほかの電気ヒーターも売り込みを図る。

熱風循環式電気炉は、どし、温度を均一に保ち、半導体製造の成膜や乾燥、試験など幅広い工程で利用を見込む。最も、炉内の酸素濃度を高使用温度は400度、任意で下げることにも対応する。熱風の出入り口に独自機構を採用するな

ヒーター内蔵パイプ

は、冷やされることで凝固する物質の付着を防ぐ製品。付着物を除去する手間を減らし、半導体製造の品質安定につながるという。既設パイプの外側から加熱する場合に比べてエ



開発中の半導体製造向け熱処理装置（イメージ）

ネルギー効率が高い。昭和鉄工はボイラなどの熱源機器や給湯、空調といった各機器のメーカー。電気ヒーターは薄型やセフミック製をはじめ多様な製品をそろえており、家

電から工業用熱処理炉を納入してきた実績がある。半導体関連では前工程で使われる300ミ

フラットパネルディスプレイ（FPD）製のシリコンウエハーの熱処理炉も展開しており、これまでに製造装置メーカーに供給している。国内外で500炉以上